

V 輝かしい先人たち せんじん

1 土地を開いた矢部理左衛門

矢部理左衛門は、1615年（元和元年）
に奥川地区の今の真ヶ沢に生まれました。

おさないころから、すぐれた子どもであったと伝えられています。

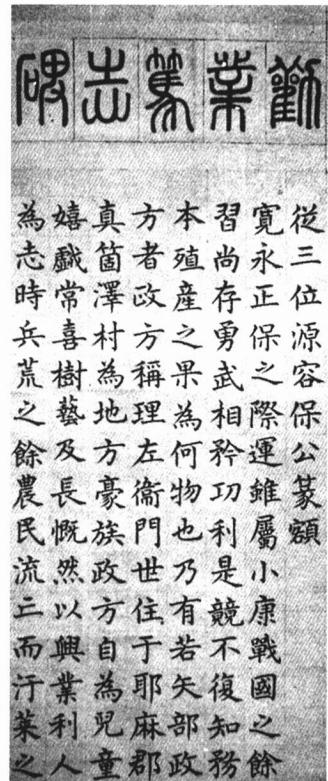
理左衛門が30歳のころの農民たちの生活
は苦しく、ほかの土地へ逃げていく人たち
なども数多くいて、田畠は荒れていきました。

保科正之が会津藩主になり、新しく田畠
を開くことをしょうれいしていることを知
ると、理左衛門はいち早く新しい田を開く
計画をたてました。

奥川地区の向原付近の原野に目をつけ、
会津藩に新しい田を開くことをねがいでて
許可されました。

1645年（正保2年）には、真ヶ沢から吉
田というところにすまいを移し、大勢の人
を使って雨の日も風の日も休まずに、新しい田の開発につとめました。
およそ10年後には、たくさんの米がとれるようになり、その成果を
会津藩にほうこくしました。

会津藩では、理左衛門のはたらきをみとめ、新しい田が開かれたあ
たりを吉田組とし、理左衛門をその組の郷頭（村々を治める役）にと
りたてました。



▲理左衛門のはたらきを
たたえた碑文